



第11回福祉助け合い活動交流会 ひとりぼっちにしないまちづくり ～多世代が集う居場所作り～

開催報告

10年後の2025年にはこれまで経験した事がない、超高齢化時代が来る！と言われてい
ます。今回の会では講師のお話や事例報告を聞き、自分の事と捉え、どうしたら安心して
まちに住み続けていけるのか助け合いの原点の戻り、グループで交流をしました。

《主催：東京都生協連 福祉助け合い活動部会》

開催日：2016年1月27日（水）

10：30～15：00

会場：コープみらい プラザ新中野

2階会議室

講師：宮城 孝氏（法政大学教授）

参加者：72名（7生協、1町会）

☆タイムスケジュール☆



午前進行：東都生協
篠田 栄子さん

10：30 開会・挨拶・諸注意等

10：35 講演

「孤立しない・孤立させない支えあいのまちづくり」

12：10 昼食

12：45 事例報告

13：25 ワークショップ

15：00 終了



挨拶：地域包括
システムに於い
ての生協の役割
や、新会館竣工
について



東京都生協連
竹内 誠専務理事



講演：宮城 孝氏 「孤立しない・孤立させない支えあいのまちづくり」

法政大学現代福祉学教授、法政大学大学院人間社会研究科教授、博士（社会福祉学）



「あなたが住むちは、最近高齢化してきていると思いませんか？」の質問から始まり、参加している大多数の方が手を挙げていました。また、「あなたの周りに引きこもり状態の成人がいますか？」という質問にも手が挙がり、今まで経験した事のない超高齢時代が迫っている様子が伺えました。地域支えあい活動が目指す中で、平均寿命と健康寿命の差が男女とも大きい事に衝撃を受けました。高齢者の健康寿命を延ばすには“孤立させない”、高齢者が持っている力を活かす、様々な世代の住民が協力して明るく元気に過ごせる地域づくりが大事な事を理解しました。DVDから、松江市淞北台地域を始め、先生が関わっている地域の事例を知る事が出来ました。

今後、増えて行く軽度認知障害を含む認知症対策、認知症予防対策の重要性や認知症の方や家族の方への配慮は、地域づくりの中で培っていく等の必要性を理解しました。日常、地域にいる中学生や地域

の中に居る生協等が高齢者の対応を学んだら大きな力となるので、地域活動に結び付けていくかが課題である事を話されました。地域包括ケアシステムを上手に利用し、市民が賢くなる事も必要であり、この10年間で独居、夫婦二人暮らしの高齢者が増える事で、ちょっとした困り事のニーズが増える傾向にある。また、子どもの貧困、若者等の引きこもり、障害者への支援についても話され、特に老親と未婚の子どもの同居世帯に於ける8050問題（高齢者虐待や精神疾患の原因）に都市部での高齢化が急速に進む事にも言及されました。生活困窮者の子どもの学習支援、子ども食堂、フードバンク事業への生協の持っている資源を使つての支援への期待も込められました。福祉ネットワークを考える上で、常に何が必要か、地域の課題は何かを含め、顔の見える関係づくりが大事な事を改めて学ぶ事が出来ました。高齢化に伴う質問も出され、和やかな中にも何かやれる事はあるという思いを感じました。



中野区宮桃町会会長 中山 浩一さん

実践♥報告



東京ほくと医療生協 理事
浜野 妙さん



☆中野区桃園地域の取り組み☆

中野区区民桃園活動センターの支え合い部会長となり、5年になります。最初は何をどうやっていいのかわからず、先進的な活動をしている千代田区のフォーラムに参加をし、「支えあいマップ」に大きな衝撃を受け、その後研修に参加してマップを作成した。点と点を結び線にすると、地域の課題が見える事を学んだ。桃園地域には8つの町会と1つの自治会があり、2013年2月までに、区から桃園地域すべての町会が見守り名簿の提供を受け、この名簿が桃園地域の見守り・支えあい活動のツールになっている。桃園地域では、地域の居場所作りとしてサロン活動が盛んになり、サロン以外にも映画観賞会等をセンターで行い、町会外の人々の参加もあり、賑わっている

☆地域のたまり場“ほっとカフェ”☆

地域で何かやりたいと思い、空き店舗がないかと商店会長さんに相談し借りられる事になり、家賃も大家さんと決めた。物の販売について保健所や社協に行き相談をし、実現した。医療生協では有償ボランティアはなく、自分達で利益を出さないと維持できないので、パンの販売やコーヒーをお客様の前で淹れる等している。スタッフも生協関係者だけでなく、地域の人と一緒に入り、1日2枠で回している。北区志茂4丁目七溜商店街で火曜日から土曜日まで10時から16時まで開いている（土曜日は13時）が、平均10名の参加がある。今後は高齢者安心センターとより協力をすすめ、若い人にも来てもらえるようにしていきたい。



午後の進行
パルシステム東京
廣瀬 志津代さん



☆グループワーク

① 宮城先生のお話を聞いて

超高齢化という事にびっくり/地域の人々が主体となり、ゆるやかなつながりが大事/声を挙げていく/8050問題/他人の事も気にする社会に!/立ち入るではなく、それぞれの生活を支える/生協が出来る事を考え、行動する/

② 安心して住めるまちって?

向こう三軒両隣挨拶が出来る関係/組織も個人も横につながる/ひとりぼっちでないと感じる居場所がある/人の事を気にすれば、自分の事を気に掛けてくれる人がいる/

<アンケートより>

・孤立しない事、引きこもらない事が重要な理由がよく理解出来た/事例報告から、地域に合った活動を住民自身が行う事が大切な事を学んだ/宮城先生のお話をグループで更に深める事が出来た/地域をつながり作りを進めるために、ひろばの充実をさらにしていく/生協関係者以外の参加があると、より交流が深められると感じた/島根県松江市を取り上げて頂いた先生はさすがだと思いました/地域によって居場所作りの違いはあるが、一歩踏み出し、工夫や話し合いを重ねて続けて行く事が大切だと感じた

【まとめ】宮城先生が「世界でだれも経験した事のない超高齢化時代を日本が迎える」と話された事に皆が驚きました。その後、各地で実践している取り組みを見たり、実践報告を聞き、自分達でも何か出来そう！何かやりたいという思いが芽生えて来ました。グループワークは6~7人で行ったので、皆の声が聞こえて、一人ひとりの話す時間も取れ、より深い交流が出来ました。アンケートにも書かれていましたが、実践報告の1つを生協以外から行った事で、これからの福祉・助け合いの軸となる所が見えたようでした。より多くの方々の参加が地域をつながり作りになる事を改めて感じる会となりました。テーブルにお菓子もあり、和んだ雰囲気の中で話が盛り上がりました。昼食は昨年に続き、東都生協ワーカーズ旬にお願いし、大変好評を得、笑顔が溢れた会となりました。

